

ボッコローニ大学 2016年度交換留学成果報告書

1. 留学の概要・目的

私は2016年8月24日から2017年1月3日までの5ヶ月間、イタリアーミラノのボッコローニ大学に交換留学制度の下で留学させていただいた。私の留学の目的はIPPで行っている研究をより深めたく、社会課題を解決するための政府機関以外の国際機関やNPO、NGO等の公共マネジメント手法を学ぶことである。

2. 学習成果

留学の出発前に受講する予定の授業（ECONOMICS (POVERTY, INEQUALITY AND INCOME DISTRIBUTION) と STRATEGIC PUBLIC MANAGEMENT) を受講してみたが、IPPで学習してきた内容と重なるところが多いため、最終的に二つの違う授業を受けることにした。それは SOCIAL ENTREPRENEURSHIP AND IMPACT INVESTING 及び CITIES, CULTURAL TOURISM AND URBAN LIFE であった。

一つ目の授業にはこの数年間トレンドとなっている SOCIAL ENTREPRENEURSHIP（訳：社会起業精神）について理論的な知識及び実践的なケーススタディを紹介していただいた。社会課題を解決するには、政府機関、民間企業及びNPO、NGO等が参加するが、それぞれの機関には長所と短所があり、社会課題の解決策にカバーし切れない分野、対象者が発生する。そこで、社会起業家が登場し、上記の三者の短所を補って、社会課題の解決に共同する。授業には社会起業精神の特徴を学んだ後、イノベーションを活かしたビジネスプランの作成からビジネス活動の社会へのインパクトの評価までの過程、そして、活動を行うために必要な予算の確保等の社会起業精神で起業したい人が注意すべきなことを学ぶことができた。理論的なことを深めるために、講師のみでなく、ゲストスピーカーのレクチャーも受け、さらに、学期にわたって、大きなグループプロジェクトに取り組んだ。この話題はアジアにおいて、ヨーロッパや米国ほど普及されないため、この度ボッコローニ大学で授業を受けたことは私の現在の研究及び将来のキャリアに役に立てると思う。

二つ目の授業は CITIES, CULTURAL TOURISM AND URBAN LIFE であった。この授業には CITIES（都市）、CULTURES（文化）及び TOURISM（観光）の関連性を中心に分析され、ある都市の持っている文化財及びクリエイティブ産業の活動を活かし、観光を開発することを通じて都市を活性化する政策の立案方法やスキルを学ぶことができた。さらに、様々なスティックホルダーからのレクチャーも受け、ケーススタディ分析やグループワークにも取り組んだ。

この二つの授業で一番苦労したのはグループワークであった。最初人脈がなかったため、グループに入れてもらうのに苦労したし、イタリア人学生の課題を進める流れにまだ慣れないから、話し

合いがうまくいかない時もあった。しかし、その後、アジアの事例を紹介したり、積極的にアイデアや意見を出したりすることで自分の価値をアップすることができた。グループメンバーと協力していく間に相互理解がより深まって、いい友達がたくさんできたので、とても貴重な体験だったと思う。

3. その他

上記2つの授業以外に、イタリア語の語学コースも受講した。現地の日常生活に非常に役に立っていたと思う。イタリア語を少し話せることで、イタリア人の学生と様々な場で交流でき、彼らの考え方やライフスタイルからも色々面白いことが見えてきた。大学で一生懸命勉強していた彼らは授業が終わったら、社会活動に参加し、さらに、インターンシップ等にも参加している。ボッコーニ大学ではインターンシップが卒業条件の一つであることから、勉強とインターンを両立することに一生懸命する彼らの姿を見て、自分ももっと頑張らないといけないと思った。

今度の交換留学期間において、色々な国からの留学生と出会って、交流できたことで、自分のまだ知らないところが色々見えてきたので、私にとって、非常に貴重な経験であった。ボッコーニ大学で学んできたこと及び2年間IPPで取得できた知識をもって、将来の仕事に貢献していきたいと思う。